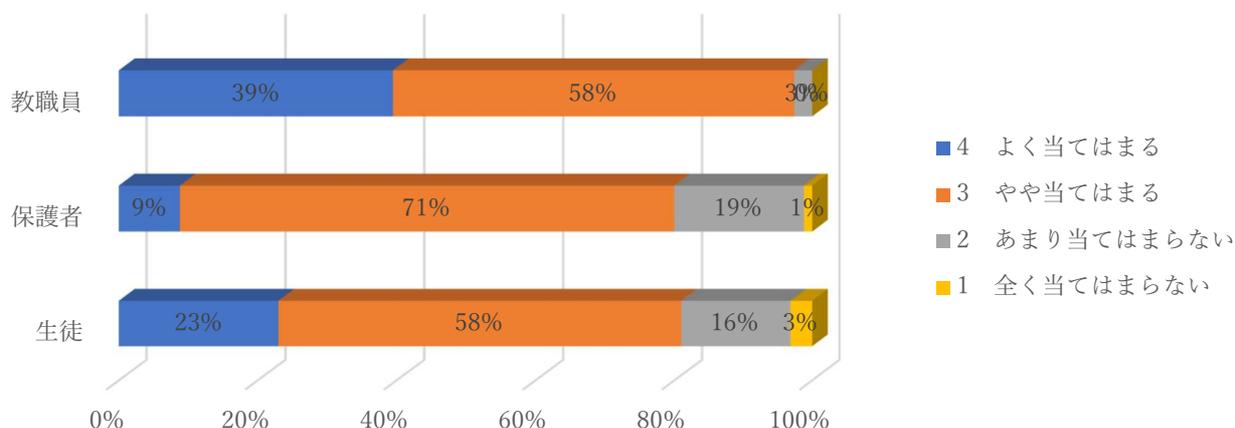


令和3年度 学校評価集計結果

1 学力の向上に関する評価

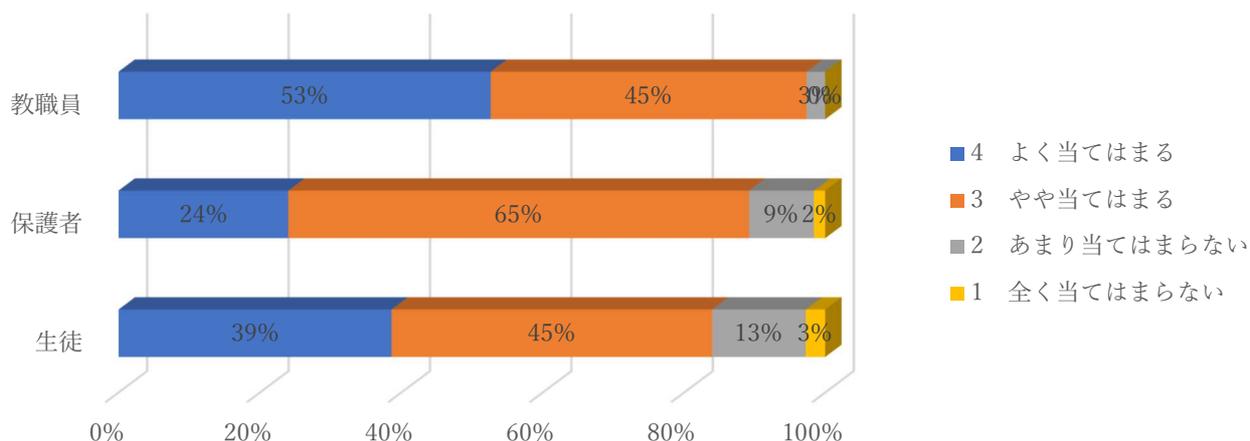
1 本校は、わかる授業・興味・関心を引く授業となるように工夫・改善を図っている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせて、生徒が 81%、保護者が 80%と高い割合を占めています。教職員は 97%で、「よく当てはまる」の割合が 39%と、生徒に比べ高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.4、保護者が 2.9、生徒が 3.0 でした。

【分析】教員は高い水準を保っているものの、生徒保護者とのギャップが見られました。全教員で、今後も課題設定の工夫やまとめの時間の充実を図り、わかる・できる授業の工夫・改善を図ってきたいと思えます。

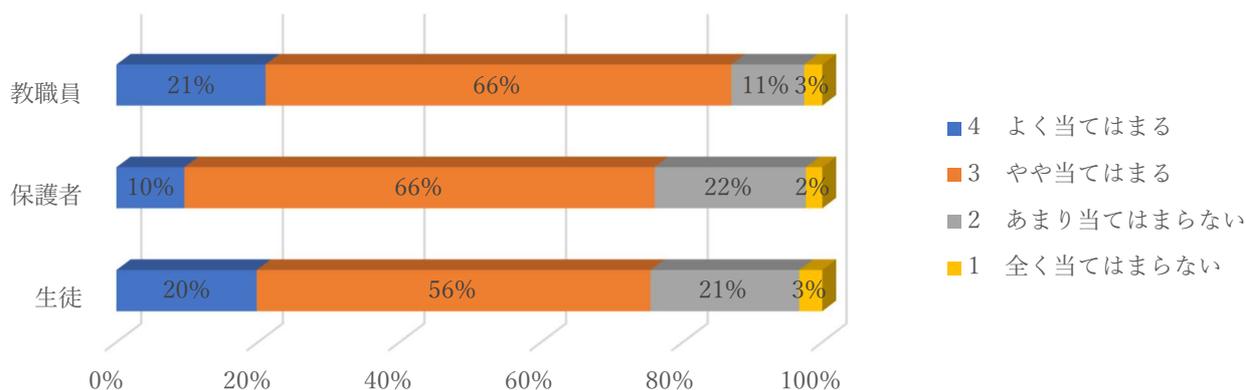
2 本校は、チャイムtoチャイムを守り、完全授業に努めている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせて、生徒が 84%、保護者が 89%と高い割合を占めています。教職員は 98%で、「よく当てはまる」の割合が 53%と高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.5、保護者が 3.1、生徒が 3.2 でした。

【分析】「やや当てはまる」も含めた回答は 84%以上ですが、「全く当てはまらない」と回答した生徒が 3%いるという結果を真摯に受け止め、完全授業の実施に努めていきたいと思えます。

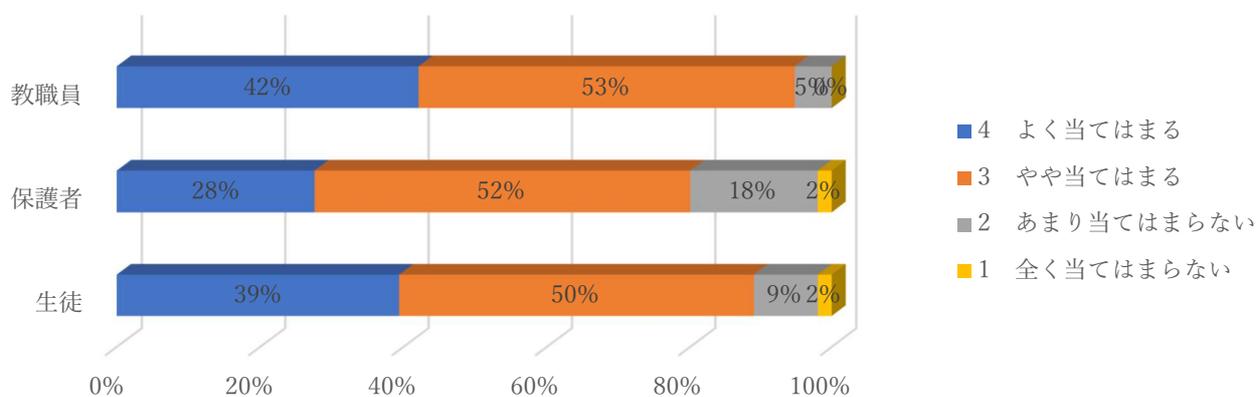
3 本校は、アクティブラーニングをはじめ、課題解決する力を育てる授業が行われている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせて、生徒が76%、保護者が76%と80%を下回っています。一方で教職員は87%で、生徒保護者の割合よりも高くなっています。評価の平均は、教職員が3.1、保護者が2.8、生徒が2.9でした。

【分析】ある程度高い水準は保っているものの、生徒保護者とのギャップが見られました。全教員で、今後も授業に言語活動を取り入れるなどして、主体的対話的で深い学びの時間の充実を図り、課題解決する力を育てる授業の工夫・改善を図ってきたいと思います。

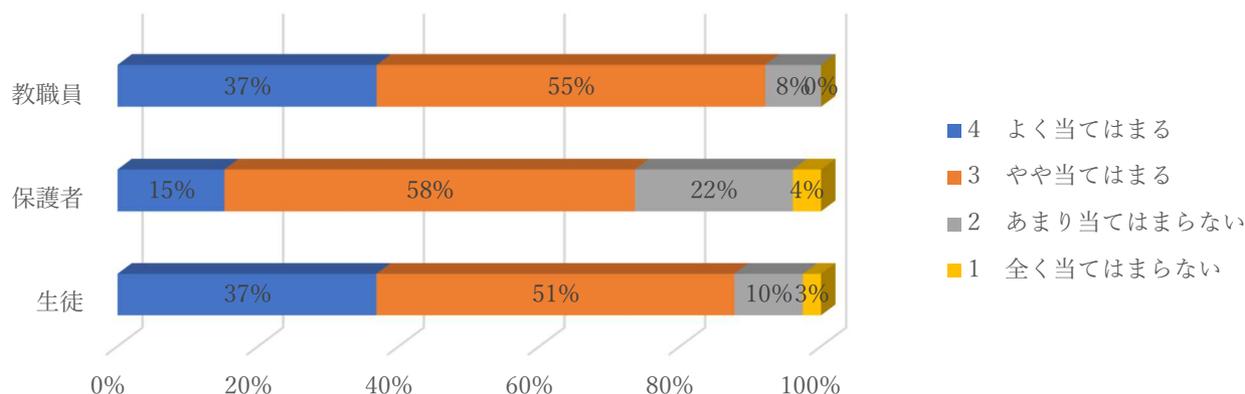
4 本校は、二者面談や三者面談等を通して進路相談や情報提供を適切に行っている。



【結果】進路状況や情報提供を適切に行っていると感じている生徒は、「やや当てはまる」を含めると89%と高い割合を保っています。保護者は80%、教職員は95%でした。評価の平均は、教職員が3.4、保護者が3.1、生徒が3.3でした。

【分析】高い水準は保っているものの、保護者と生徒・教職員に「意識のずれ」が見られます。生徒は、学校で過ごす時間が多いため、いつでも相談できる環境は整っていますが、保護者は自ら相談する回数が限られており、ほしい情報が手に入りにくいことが原因と考えられます。満足していない保護者が20%いるという結果を真摯に受け止め、今後も保護者生徒が求める情報の提供に努めていきます。

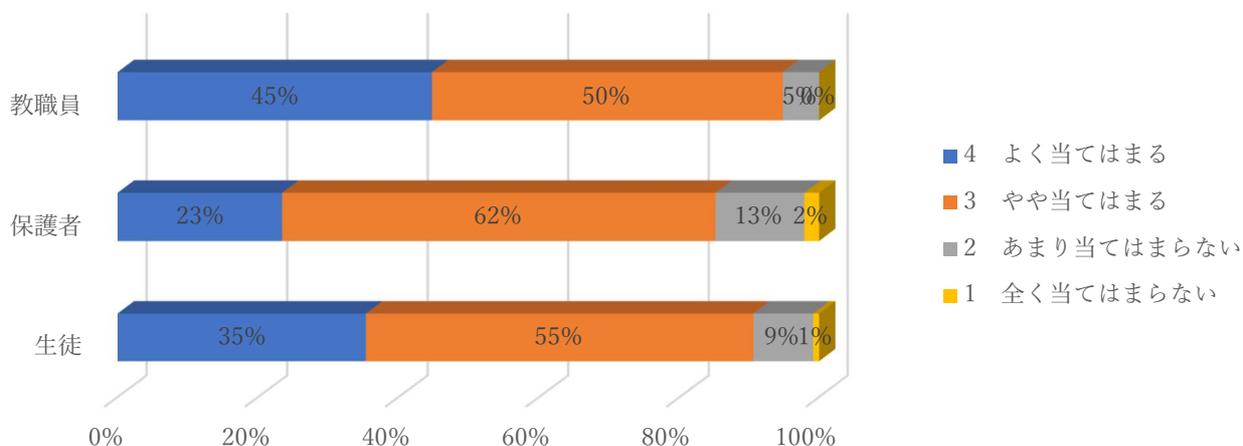
5 総合的な探究の時間等をとおして生徒は自分の夢に向き合うことができている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせて、生徒が 88%、保護者が 73%、教職員は 92%と、生徒、教職員は高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.3、保護者が 2.8、生徒が 3.2 でした。

【分析】高い水準は保っているものの、保護者と生徒・教職員に「意識のずれ」が見られます。須賀川高校では、総合的な探究の時間に「すこうドリームプラン」という、自分の夢に向かうための時間を展開しておりますが、生徒はあまり向き合っていないと思う保護者が 26%いるという結果を真摯に受け止め、生徒が自分の夢に向き合える機会の提供に努めていきたいと思えます。

6 本校は、各種検定試験の合格率向上に向けて取り組んでいる。

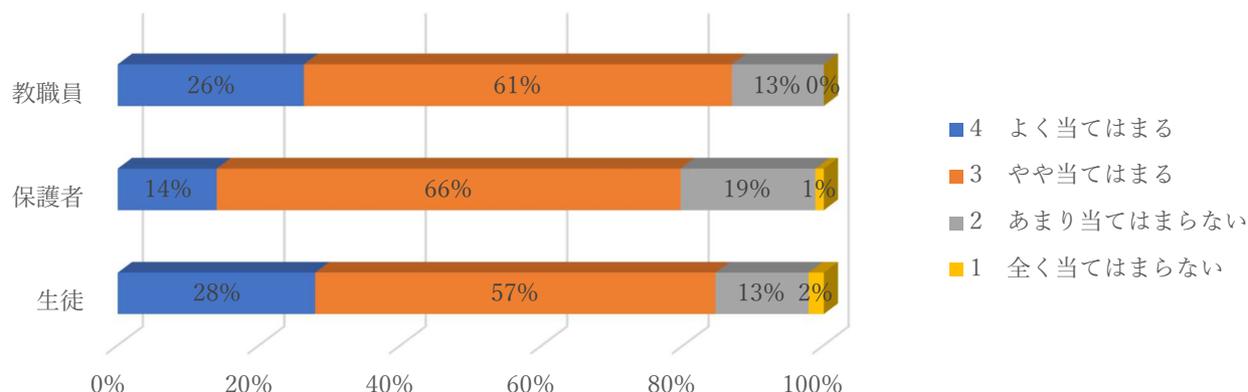


※今回の結果は、オフィス情報科の生徒保護者を対象としました。

【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 90%、保護者が 85%と 95%と高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.1、保護者が 2.8、生徒が 2.9 でした。

【分析】本校では、オフィス情報科の生徒を対象に、各種検定試験の合格率の向上に向けての取り組みを行っております。普段の授業に加え、放課後の課外など、教育活動に前向きに取り組んでいることが評価されていると考えます。授業や課外等で「わかった・できた」という実感を持たせられるよう、今後も取り組んでまいります。また、漢字検定、数学検定、英語検定については、普通科の生徒も含め、希望する生徒を対象にして、今後も検定試験の合格率向上に向けて取り組んでまいります。

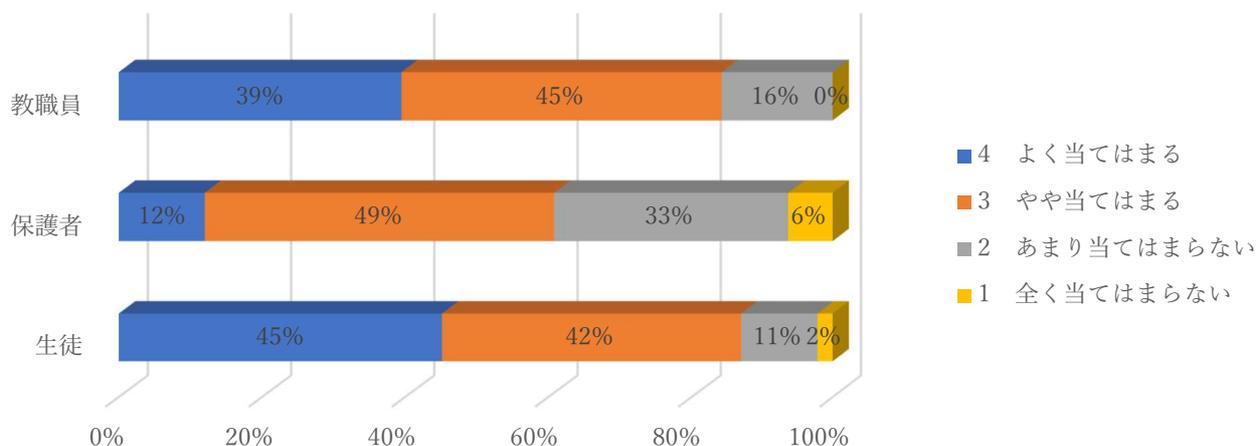
7 本校は、学力向上・進路実現に向けた取り組みが適切に行われている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせて、生徒が85%、保護者が80%、教職員は87%となり、高い割合を占めています。しかし「あまり当てはまらない」または「全く当てはまらない」と回答した保護者が20%います。評価の平均は、教職員が3.1、保護者が2.9、生徒が3.1でした。

【分析】「やや当てはまる」も含めた保護者の回答は80%以上ですが、そうでない回答は20%いるという結果を真摯に受け止め、今後の学力向上・進路実現について分析し、具体的な改善策を講じていきます。

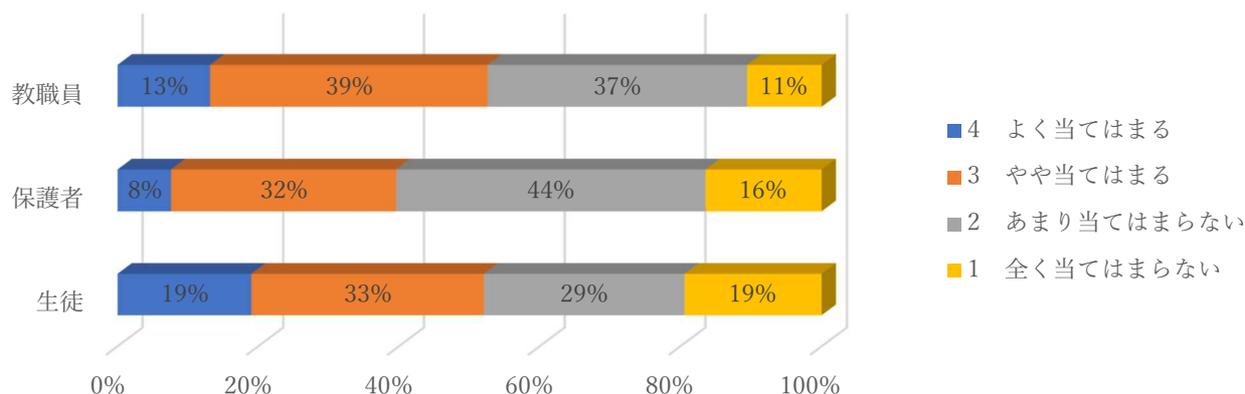
8 私（本校）は、朝学習に積極的に取り組んでいる。



【結果】朝学習に積極的に取り組んでいる生徒は、「よく当てはまる」と回答したのが45%で、「やや当てはまる」も含めると87%でした。教職員は84%であり、生徒・教職員は高い割合を占めています。しかし、保護者は61%であり、生徒・教職員の割合よりも低くなっています。評価の平均は、教職員が3.2、保護者が2.7、生徒が3.3でした。

【分析】保護者と生徒に「認識のずれ」が見られます。本校では、毎日朝の10分間を使って朝の学習を行っていますが、朝学習が保護者には十分に知られていないことが原因と考えられます。「あまり当てはまらない」を含めた保護者が39%いるという結果を真摯に受け止め、朝学習の意義や取り組みについて保護者の方にもご理解いただけるよう努めてまいります。

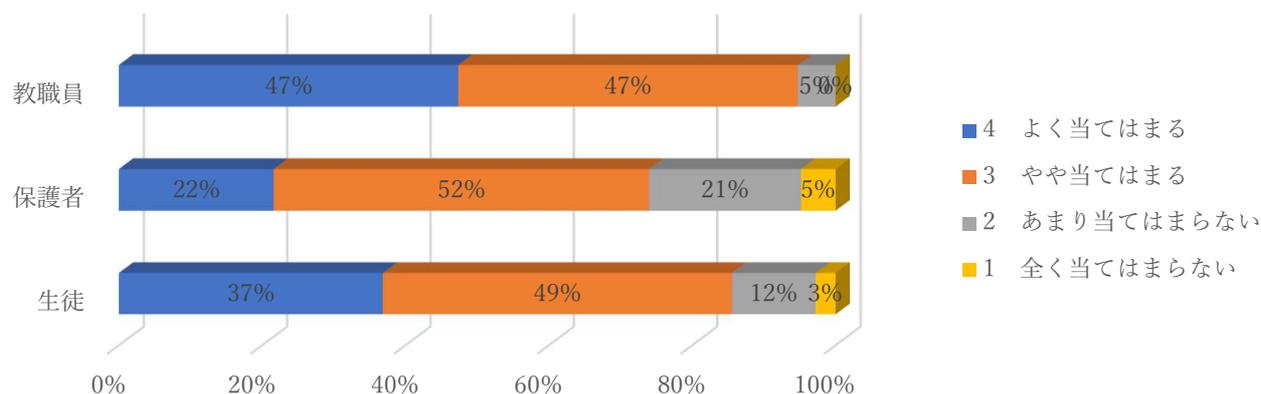
9 私（本校）は、読書時間を確保し、自分の知的財産を増やし、心を豊かにしようとしている。



【結果】生徒が読書時間を確保し、自分の知的財産を増やし、心を豊かにしようとしていると感じる保護者は、「やや当てはまる」を合わせると40%と低い割合を占めています。また、生徒は52%、教職員は52%で、こちらも低い割合を占めています。評価の平均は、教職員が2.6、保護者が2.3、生徒が2.5でした。

【分析】学校では、朝の学習の時間を使うなどして、週に1回程度10分間読書をする時間を設けていますが、学校外でも自ら進んで読書しようとする習慣を身につけていないことが原因と考えられます。今後も、読書の楽しみを体験させ、読書の意識が高められるよう、学校の取り組みの改善を図ってまいります。

10 私（本校）は、進学希望達成・就職希望達成の実現に向けて努力している。

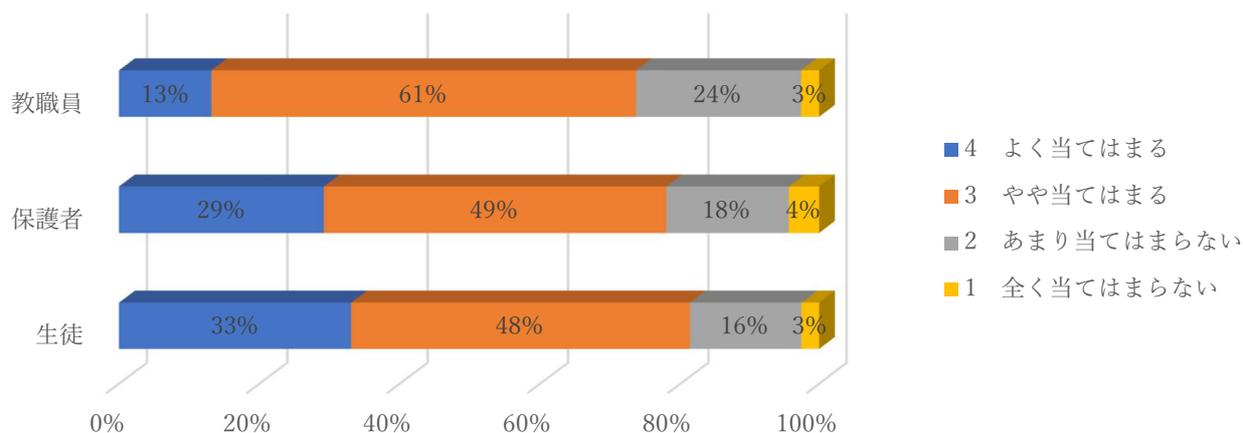


【結果】進路希望・就職希望の達成の実現に向けて努力していると回答した割合は、「やや当てはまる」を含めると生徒が86%、教職員は94%と高い割合を占めています。しかし、保護者は74%で、生徒教職員の割合よりも低くなっています。評価の平均は、教職員が3.4、保護者が2.9、生徒が3.2でした。

【分析】生徒と保護者に「意識のずれ」が見られます。生徒は学校内で努力していればよいと考えており、保護者は、学校内だけでなく、家庭内でも努力しているかを評価しているようです。本校では、学習指導、生徒指導のほかに面接指導、添削指導も繰り返し行っていますが、今後も改善を図りながら、生徒が進路希望を実現できるよう支援してまいります。

II 部活動・生徒会活動の活性化

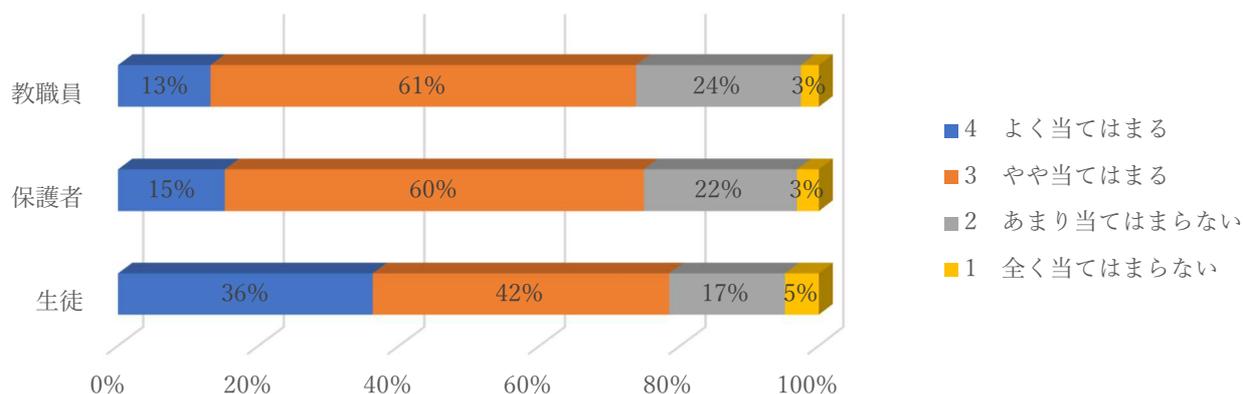
11 本校では、多くの生徒が部活動に参加し、3年間継続している。



【結果】多くの生徒が部活動に参加し、3年間継続していると感じている割合は「やや当てはまる」を合わせると生徒が81%、保護者が78%と、どちらも高い割合を占めています。しかし、教職員は74%と、生徒・保護者と比較すると、低い割合になっています。評価の平均は、教職員が2.8、保護者が3.0、生徒が3.1でした。

【分析】令和3年度4月当初の部活動の加入率は、1年生が99%、2年生が87%、3年生が82%です。部活動は、学校教育活動の一環として行われており、生徒によって自主的に組織されます。今後も、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で豊かな学校生活を体験する活動として、部活動を奨励してまいります。

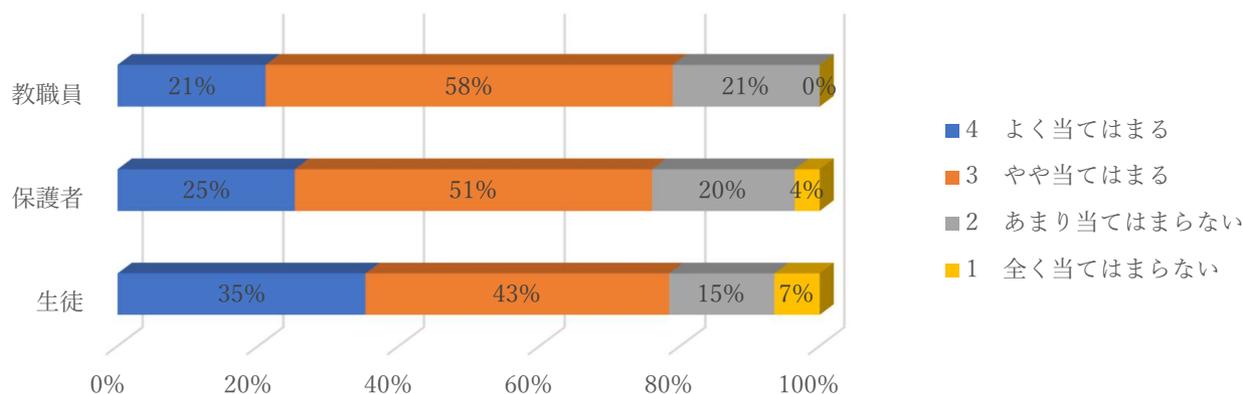
12 本校は、学習と部活動に割かれる時間のバランスがよく、生徒が充実した生活を送っている。



【結果】時間バランスがよく、生徒が充実した生活を送っていると感じている生徒の割合は「やや当てはまる」も含めて78%と高い割合を占めています。また、保護者も75%、教職員も74%と比較的高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が2.8、保護者が3.0、生徒が3.1でした。

【分析】「やや当てはまる」も含めた回答は74%以上ですが、そうでない生徒が22%、保護者が25%、教職員が27%いる当結果を真摯に受けとめ、福島県教育委員会が示した「部活動のあり方に関する指針」や「教職員多忙化解消アクションプラン」の内容を踏まえ、本校、部活動顧問等がそれぞれ効果的、計画的な指導の在り方を探求し、現在の指導の見直し改善を図り、生徒が充実した生活が送れるように支援してまいります。

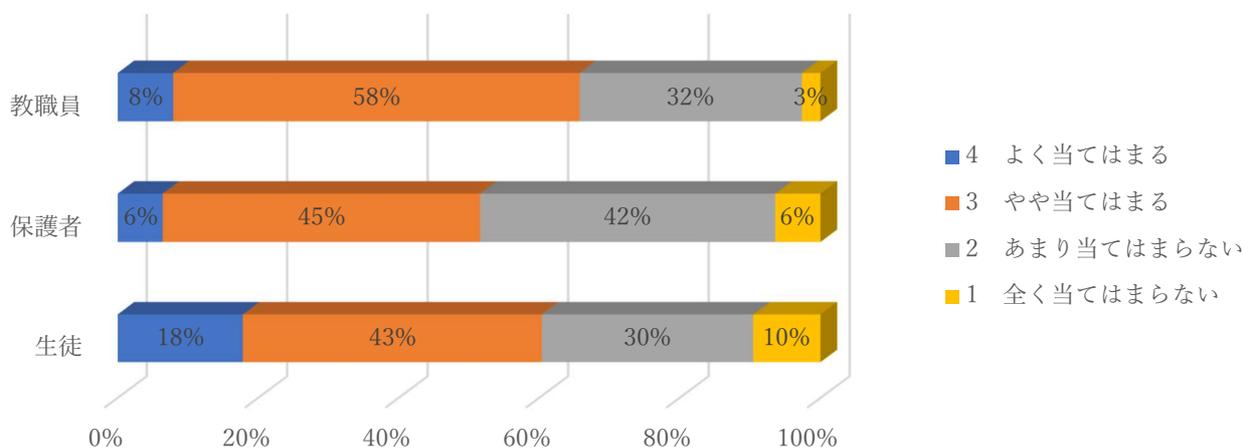
13 本校は、県大会上位入賞、上位大会へ出場することを目指して熱心に活動している。



【結果】上位大会を目指して熱心に活動していると感じている生徒の割合は「やや当てはまる」も含めて78%と高い割合を占めています。また、保護者も76%、教職員も79%と高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が3.0、保護者が3.0、生徒が3.1でした。

【分析】コロナ禍で高体連や各種コンクール等の実施に制限がかかる中、生徒の部活動への活動意欲は高い状態にあります。今後も「With コロナ」の考え方で、感染症対策を講じ、保護者のご理解とご協力を得ながら、子どもたちの練習の成果を発表できる機会を整えていく必要があります。また、引き続き、部活動への参加意欲が低い生徒にも目標を持って活動できるよう支援していきます。

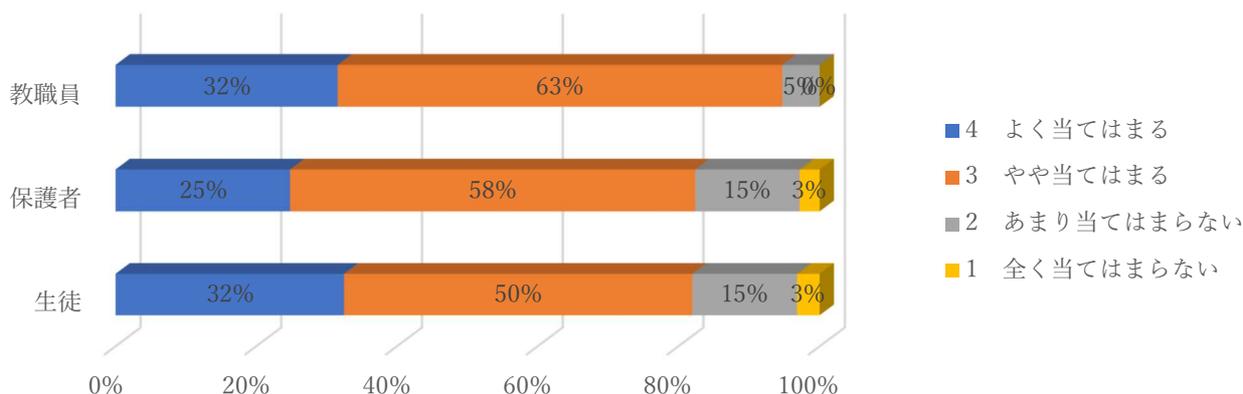
14 本校は、文化部の発表する機会を確保している。



【結果】文化部の発表する機会が確保されていると感じている生徒の割合は「やや当てはまる」も含めて生徒は61%、保護者は51%、教職員は66%でした。評価の平均は、教職員が2.7、保護者が2.5、生徒が2.7でした。

【分析】コロナ禍で高体連や各種コンクール等の実施に制限がかかる中、運動部と比べると、文化部の発表機会は少ないと感じるようです。「With コロナ」の考え方で、感染症対策を講じ、保護者のご理解とご協力を得ながら、子どもたちの活動の成果を発表できる機会を整えていく必要があります。引き続き、目標を持って活動できるよう、発表の機会を確保してまいります。

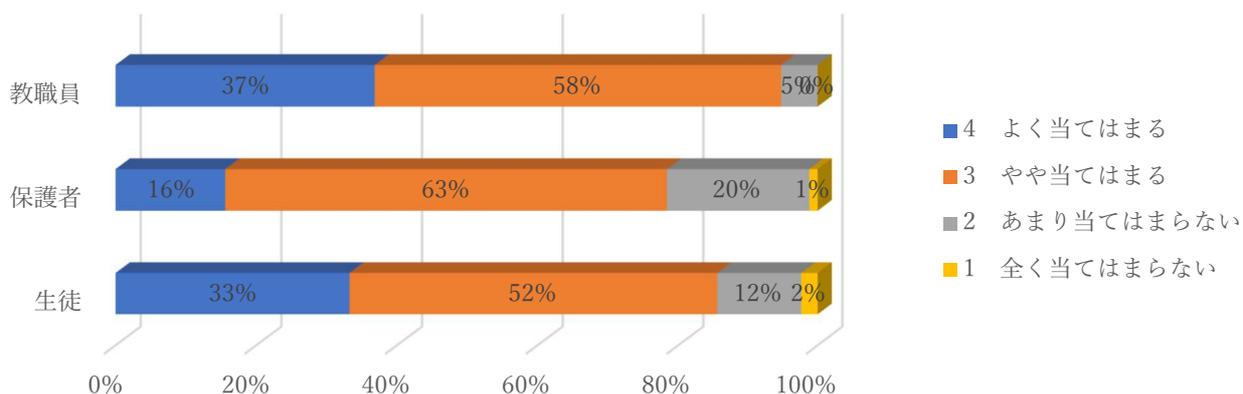
15 本校では健康・安全に配慮しながら、充実した部活動が行われている。



【結果】健康安全に配慮しながら充実した部活動が行われていると感じている生徒の割合は「やや当てはまる」も含めて生徒は 82%と高い割合を占めています。また、保護者は 83%、教職員は 95%と、高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.3、保護者が 3.0、生徒が 3.1 でした。

【分析】コロナ禍で緊急事態宣言などが発令される中、全体的に高い評価を得ることができました。「学校の新しい生活様式」を基準に、教育活動に前向きに取り組んできた成果であると考えます。ただし、18%の保護者性などが「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、今後も、「With コロナ」の考え方で、感染症対策を講じ、保護者のご理解とご協力を得ながら、子どもたちが目標を持って活動できるよう支援してまいります。

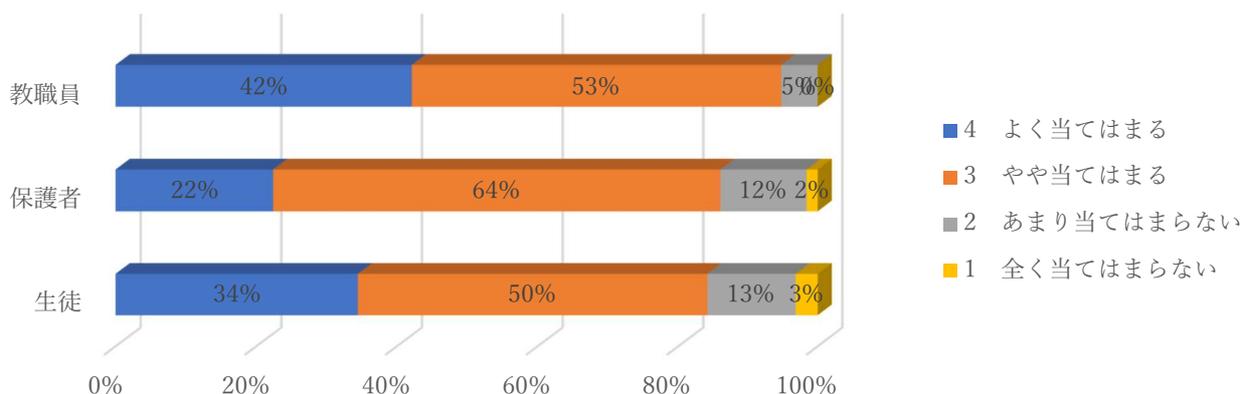
16 本校は、HR活動、生徒会活動、学校行事などが活発に行われている。



【結果】コロナ禍にもかかわらず、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と感じている割合は、生徒は 85%、教職員は 95%と高い割合を占めています。また、保護者も 79%と、概ね高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.3、保護者が 2.9、生徒が 3.2 でした。

【分析】コロナ禍の影響で、芸術鑑賞教室や体育祭、遠足・修学旅行など時期や方法を変えての実施となりました。しかし、子どもたちは制限がある中でも工夫し、行事等に積極的に参加していました。その中で、学級、学年、学校全体の一体感も生まれました。コロナ禍だからこそ、子どもたちの成長には、学級活動や学校行事は欠かせないものであるとの思いを強くしました。

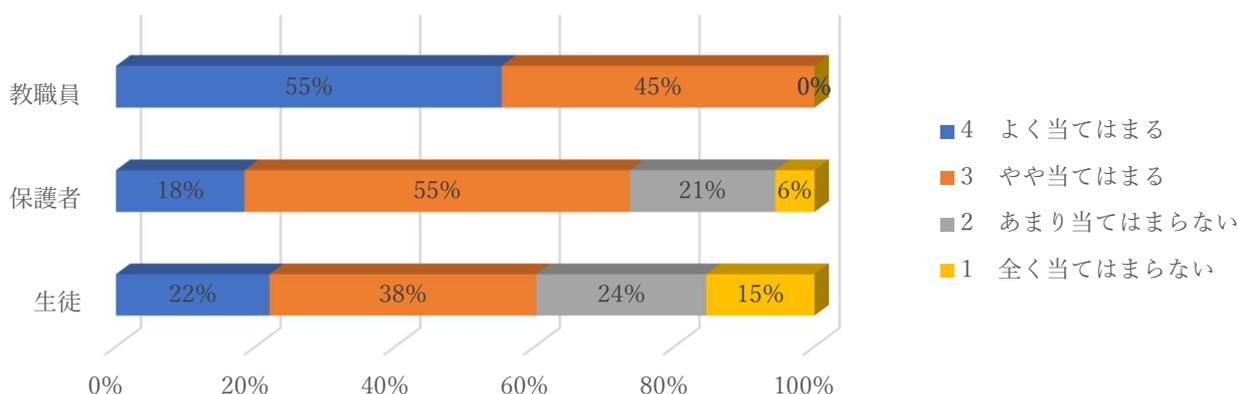
17 本校は、欠席や遅刻などをしないようきめ細かに指導している。



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が 84%、保護者が 86%、教職員が 95%と高い割合を占めています。一方で、2%の保護者、3%の生徒が「全く当てはまらない」と感じています。評価の平均は、教職員が 3.4、保護者が 3.1、生徒が 3.2 でした。

【分析】本校では、学校を遅刻した生徒は、職員室で教頭または生徒指導部員より指導を受けます。また、授業を遅刻した生徒は、生徒指導部員より指導を受けます。いずれも、遅刻の癖を持ったまま社会でることのないよう、子どもたちの幸せを願って行うものです。なお、令和 3 年度の 7 月までの遅刻者は延べ 107 名（令和 2 年度は延べ 149 名）でした。これは、ご家庭での取り組みの成果であると考えます。しかし、「全く当てはまらない」に該当する保護者や生徒がいます。この結果を真摯に受け止め、引き続き取り組んでまいります。ご家庭でもお子様への指導をよろしくお願いいたします。

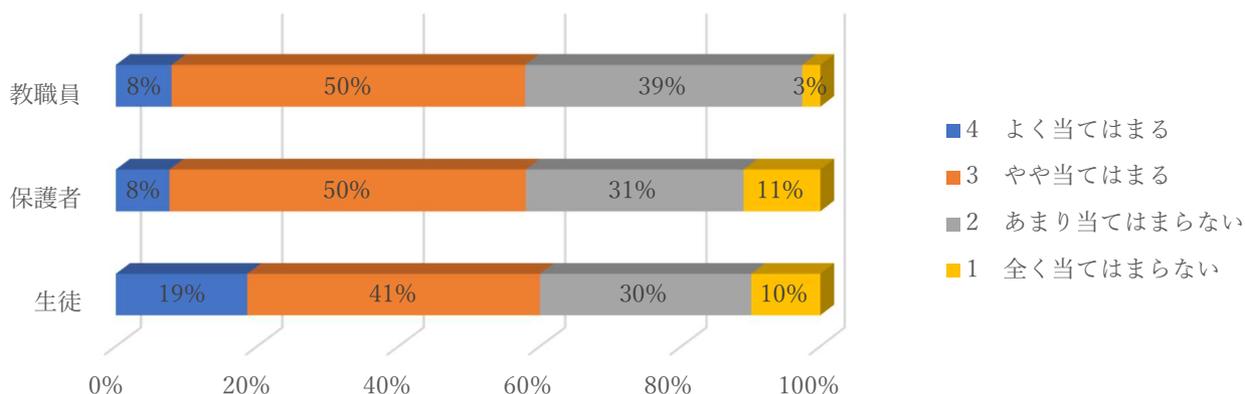
18 私（本校）は、体育祭の企画・運営に積極的に関わっている（機会を作っている）。



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が 60%、保護者が 73%でした。一方で、教職員は 100%でした。評価の平均は、教職員が 3.6、保護者が 2.9、生徒が 2.7 でした。

【分析】今年度は、コロナ禍の影響で、方法を変えての実施となりました。企画・運営はおもに生徒会が行いますので、すべての生徒が中心となって企画・運営することはありません。しかし、大会当日は、子どもたちは制限のある中でも工夫し、積極的に体育祭に参加していたと思います。学校側としても、コロナ禍でもできるだけ子どもたち同士が関わられるよう、要項を何度も改善してきました。コロナ禍だからこそ、学校行事は欠かせないものであるとの思いを強くしました。

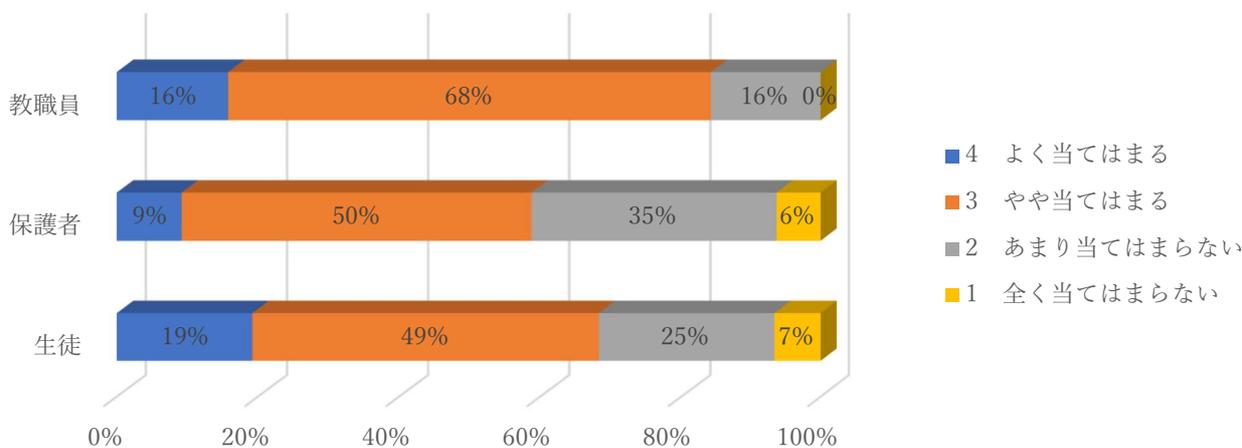
19 他校生徒との交わり交流を図ることで生徒の視野を広げることができている。



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が60%、保護者が58%、教職員が58%でした。評価の平均は、教職員が2.6、保護者が2.5、生徒が2.7でした。

【分析】今年度はコロナ禍の影響で、他校生徒との交流については、部活動での練習試合や大会などの機会を除くと、ほとんどありませんでした。そのような中、2 学年については、来年度須賀川創英館高校が誕生することを踏まえ、長沼高校生徒との交流を実施することができました。今回の結果を真摯に受け止め、他校生徒との交わり交流が図れるよう機会の確保に努めてまいります。

20 本校は対外行事への参加を積極的に行っている。

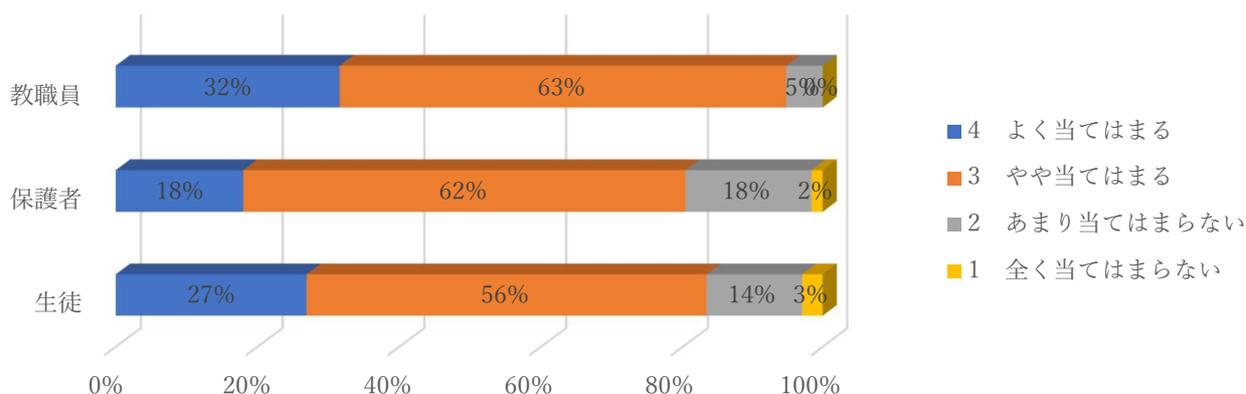


【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が68%、保護者が59%、教職員が84%でした。評価の平均は、教職員が3.0、保護者が2.6、生徒が2.8でした。

【分析】今年度は、コロナ禍の影響で「学校の新しい生活様式」を基準に、「子どもたちの安全・安心」を守りながら教育活動の充実を図ってきましたが、対外行事への参加については、積極的に行うことはできませんでした。今回の結果を真摯に受け止め、コロナの状況を見極めながら、今後も対外行事への積極的な参加を行ってまいります。

III 生活指導の充実

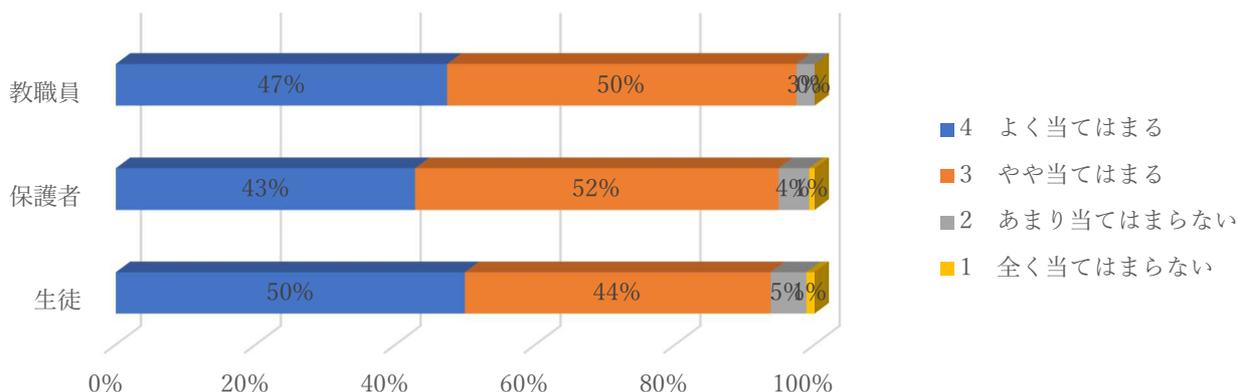
21 本校では、基本的な生活習慣の確立に向け、適切な生徒指導が行われている。



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が83%、保護者が80%、教職員が95%と高い割合を占めています。一方で、3%の保護者、2%の生徒が「全く当てはまらない」と感じています。評価の平均は、教職員が3.3、保護者が3.0、生徒が3.1でした。

【分析】本校では、基本的な生活習慣の確立に向け、欠席・遅刻指導、あいさつ指導、ルールを守る指導等を行っています。いずれも、基本的な生活習慣を身につけないまま社会でることのないよう、子どもたちの幸せを願って行うものです。基本的な生活習慣の確立は学校だけで行うものではなく、ご家庭での取り組みが基礎となります。3%の保護者、2%の生徒が「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、引き続き生徒指導に努めていきたいと思ひます。ご家庭でもお子様への指導をよろしくお願ひします。

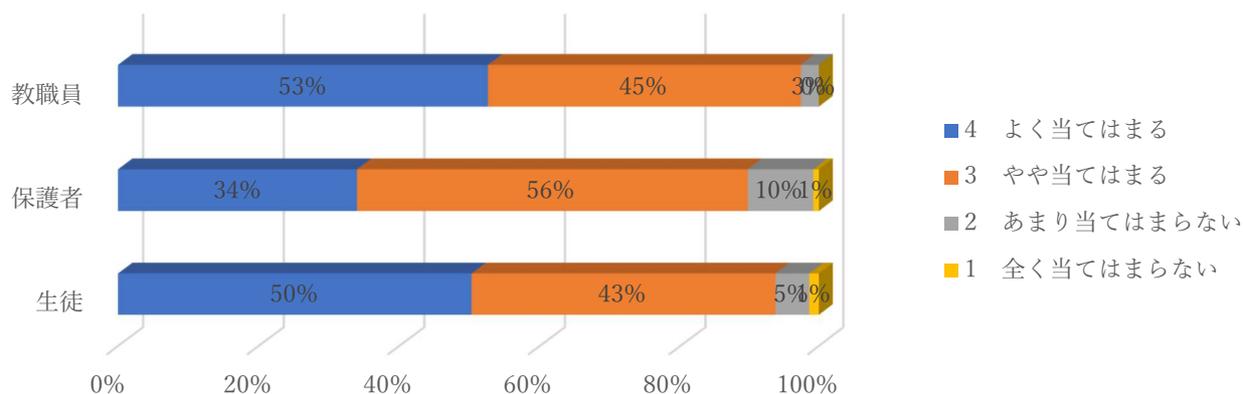
22 生徒は、高校生として好感が持てる服装を心掛けている。（本校は指導している。）



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が94%、保護者が95%、教職員が97%と、いずれもかなり高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が3.4、保護者が3.4、生徒が3.4でした。

【分析】好感が持てる服装ができていると感じている生徒・保護者の割合はかなり高い傾向にあります。これらは、家庭での取り組みはもちろん、生徒会役員、教員の朝のあいさつ運動（すこう運動）や服装指導の効果でもあると考えます。今後も、家庭や地域の協力を得ながら、好感が持てる服装の指導に努めていきたいと思ひます。

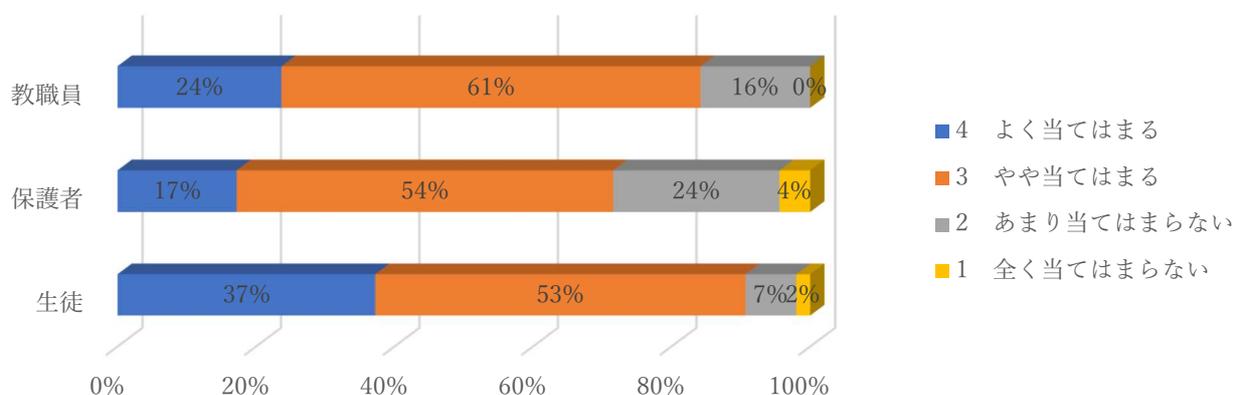
23 生徒は、高校生として好感が持てる挨拶を心掛けている。（本校は指導している。）



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が 93%、保護者が 90%、教職員が 98%と、いずれもかなり高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.5、保護者が 3.2、生徒が 3.4 でした。

【分析】好感が持てるあいさつができていていると感じている生徒・保護者の割合はかなり高い傾向にあります。これらは、家庭での取り組みはもちろん、生徒会役員、教員の朝のあいさつ運動（すこう運動）の効果でもあると考えます。今後も、家庭や地域の協力を得ながら、好感が持てるあいさつの指導に努めていきたいと思ひます。

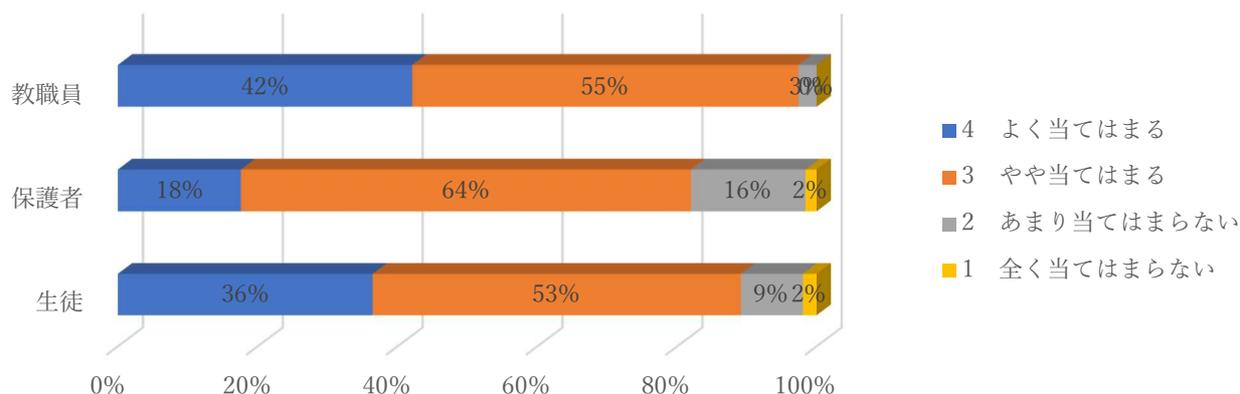
24 自ら進んで清掃活動や身の整理をし、清潔な環境づくりに努めている。



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が 90%、教職員が 85%と、いずれもかなり高い割合を占めています。一方で、保護者は 71%でした。評価の平均は、教職員が 3.1、保護者が 2.8、生徒が 3.3 でした。

【分析】毎日の清掃に加え、校舎を大切に使用していることが生徒・教職員の満足度につながっていると考えます。一方で、保護者にとっては、三者面談等で保護者が来校したときに、部屋の物が雑然と置いてあったりすると、清掃や身の整理ができていないのではないと感じるときがあると考えます。今回の結果を真摯に受け止め、引き続き、清潔な環境づくりに努めてまいります。

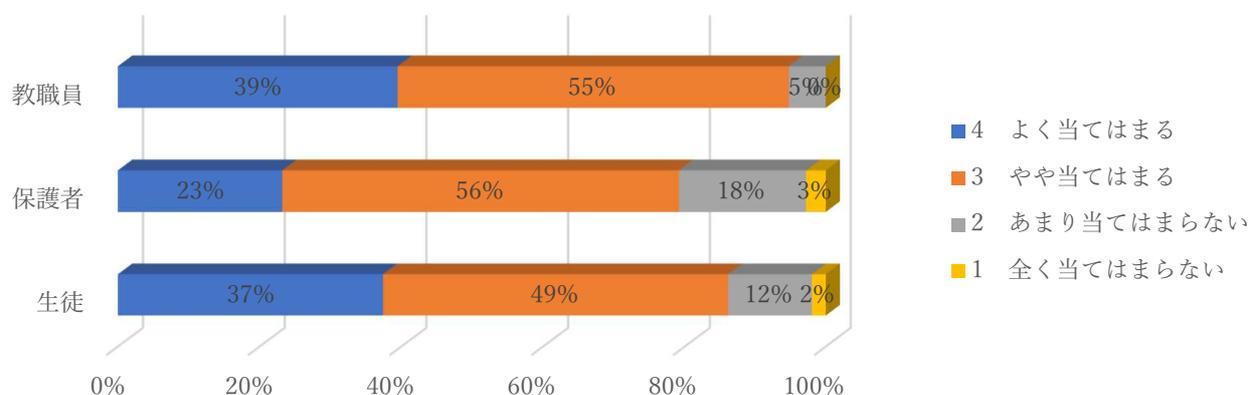
25 本校は生命や性に関する授業や講演等をとおして、生命の大切さについて指導している。



【結果】「やや当てはまる」を含めると、生徒が 89%、保護者が 82%、教職員が 97%と、いずれも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.4、保護者が 3.0、生徒が 3.2 でした。

【分析】高い割合を占めているのは、授業や外部講師を招いた講演会、二者面談等を実施し、生命の大切さについて指導してきた成果であると考えます。ただし、18%の保護者が「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、今後も生命の大切さについて学ぶ環境づくりに努めてまいります。

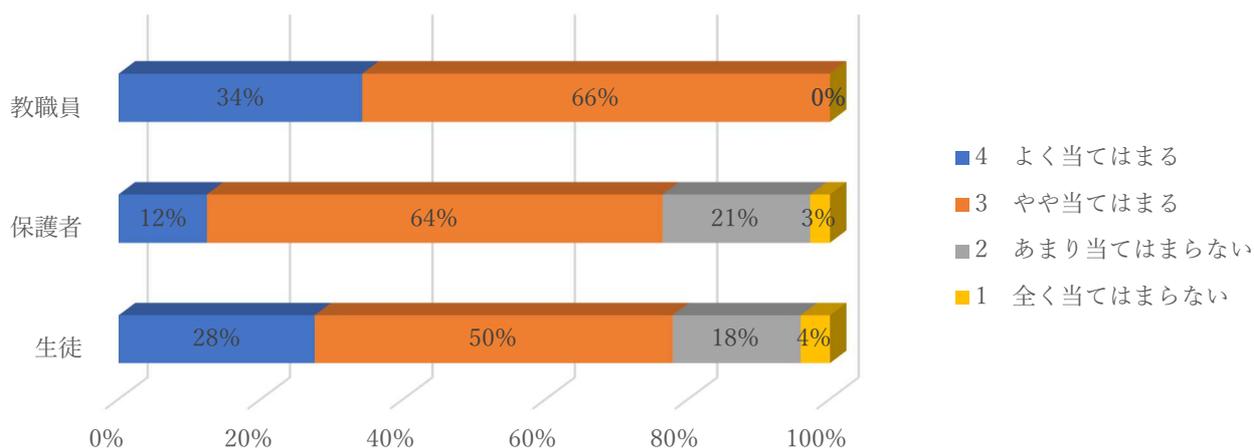
26 本校は生徒が登下校時に事故にあわない、事故を起こさないように指導を行っている。



【結果】登下校時に事故にあわない、事故を起こさないよう指導していると感じている生徒の割合は「やや当てはまる」まで含めると 86%、保護者は 79%、教職員は 94%と、どちらも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.3、保護者が 3.0、生徒が 3.2 でした。

【分析】生徒・教職員の数値が高い背景には、毎週水曜日に実施するすこ運動や、地域の皆様から指摘があった場合には、担任・生徒と情報を共有して生徒に事故を起こさない・あわないよう注意喚起するなど、生徒指導に取り組んできた成果であると考えます。ただし、2%の生徒 3%の保護者が「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、今後も指導を行っていきます。

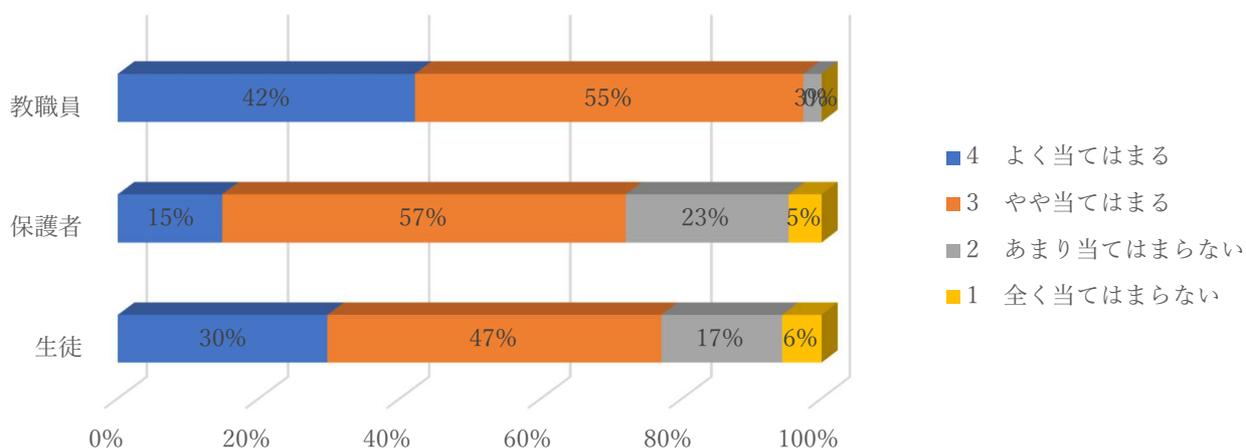
27 本校は生徒の悩みや相談に対して、適切な対応がなされている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が78%、保護者が76%と高い割合を占めています。一方、「全く当てはまらない」の割合は、生徒が4%、保護者が3%でした。評価の平均は、教職員が3.3、保護者が2.9、生徒が3.0でした。

【分析】概ね高い割合を占めています。しかし、教職員と生徒・保護者に「認識のずれ」が見られます。保護者や生徒は、定期的な教育相談やアンケートの他に、日々の生活で生徒一人ひとりの話をよく聞いて、教師が丁寧に対応することを求めているのではないかと考えます。また、「全く当てはまらない」に該当する保護者や生徒がいます。この結果を真摯に受け止め、今後も生徒一人ひとりの心の居場所作りに努めていきたいと思えます。

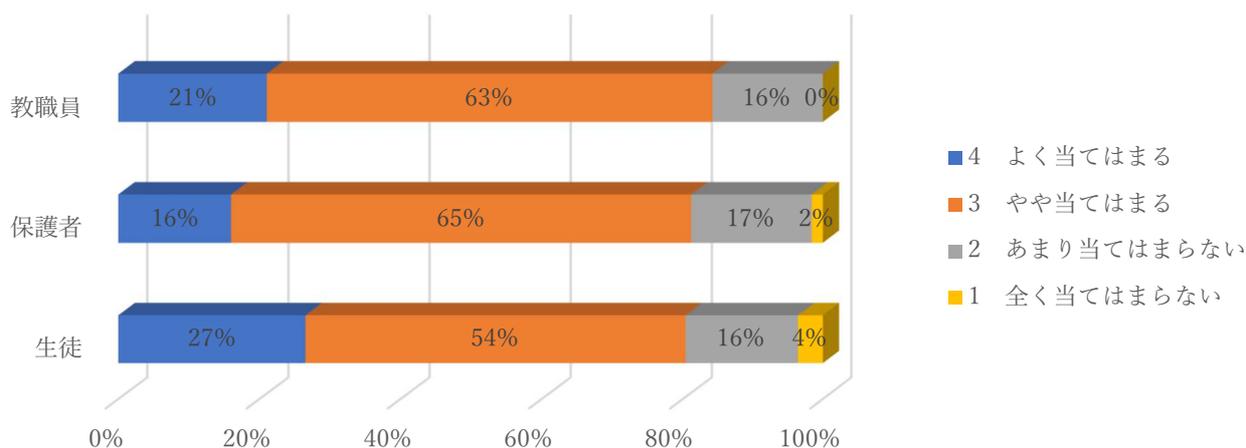
28 本校はいじめの未然防止と早期対応がなされている。



【結果】いじめの未然防止と早期対応がなされていると感じる割合は、「やや当てはまる」を合わせると、生徒が77%、保護者が72%、教職員が97%でした。一方で、「全く当てはまらない」の割合は、生徒が6%、保護者が5%でした。評価の平均は、教職員が3.4、保護者が2.8、生徒が3.0でした。

【分析】しかし、教職員と生徒・保護者との間に「認識のずれ」が見られます。大人の目が届かないところで行われることもいじめの特徴といえます。いじめの目を早期に摘み取るために、アンケート実施や教育相談しやすい環境づくりに取り組み、安全で安心な学校生活ができるよう努めてまいります。また、「全く当てはまらない」に該当する保護者や生徒がいる現実を真摯に受け止め、今後もいじめの未然防止と早期対応に努めていきたいと思えます。

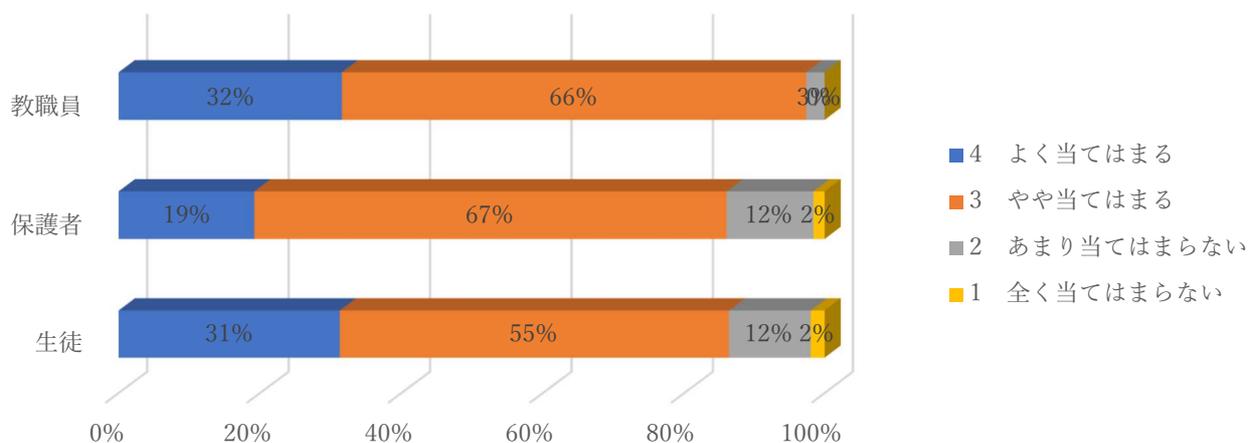
29 本校は環境美化の取り組みが積極的になされている。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 81%、保護者が 81%、教職員が 84%と、いずれも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.1、保護者が 3.0、生徒が 3.0 でした。

【分析】毎日の清掃に加え、校舎を大切に使用していることが生徒・保護者・教職員の満足度につながっていると考えます。一方で、長期休業中など、ロッカーや机の上に物が雑然と置いてあったり、廊下に物が落ちていたりすると、環境美化の取り組みが十分ではないのではと感じることがあると考えます。今回の結果を真摯に受け止め、引き続き、環境美化の取り組みに努めてまいります。

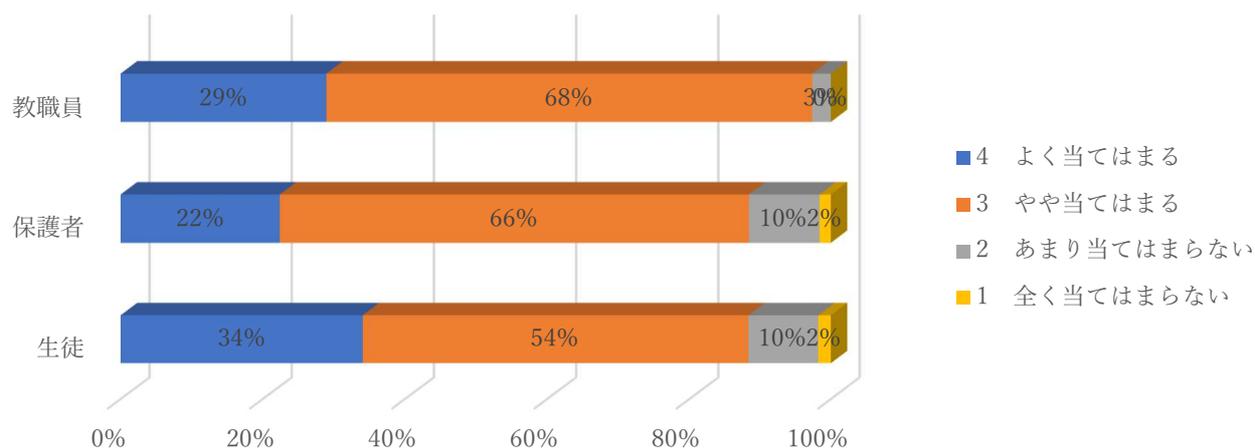
30 本校は安全教育や健康管理に取り組んでいる。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 86%、保護者が 86%、教職員が 98%と、いずれも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.3、保護者が 3.0、生徒が 3.2 でした。

【分析】生徒・保護者・教職員の数値が高い背景には、授業、すこ運動、地域の皆様から指摘があった場合には、担任・生徒と情報を共有して生徒に事故を起こさない・あわないよう注意喚起するなど、安全教育に取り組んできた成果であると考えます。また、保健だよりの発行や毎日の検温チェックの呼びかけなどに取り組んでいることが成果であると考えます。ただし、2%の生徒 2%の保護者が「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、今後も指導を行ってまいります。

31 本校は学校での事故の防止に努めている。

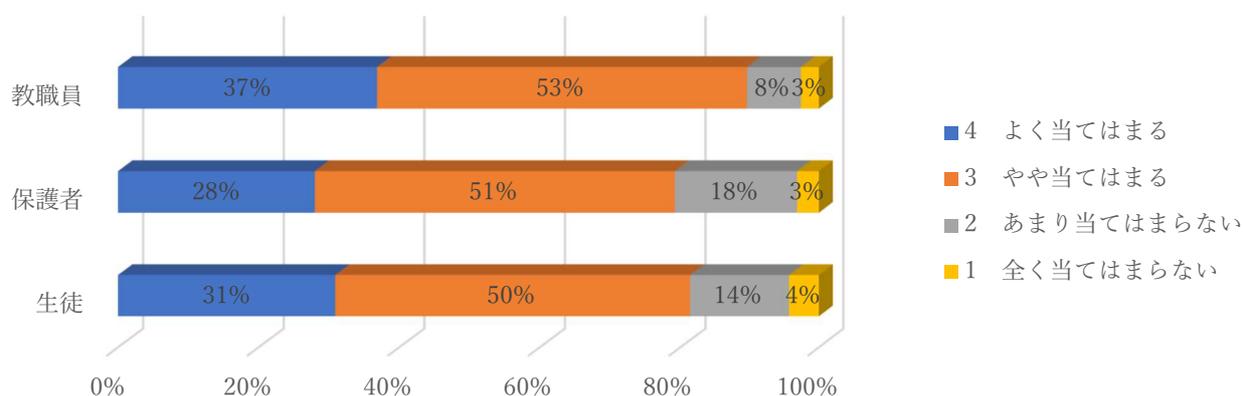


【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が88%、保護者が88%、教職員が97%と、いずれも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が3.3、保護者が3.1、生徒が3.2でした。

【分析】生徒・保護者・教職員の数値が高い背景には、授業、すこ運動、地域の皆様から指摘があった場合には、担任・生徒と情報を共有して生徒に事故を起こさない・あわないよう注意喚起するなど、安全教育に加え、教職員の防火診断等による危険箇所の点検に取り組んできた成果であると考えます。ただし、2%の生徒 2%の保護者が「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、今後も指導を行っていきます。

IV 地域との交流の推進

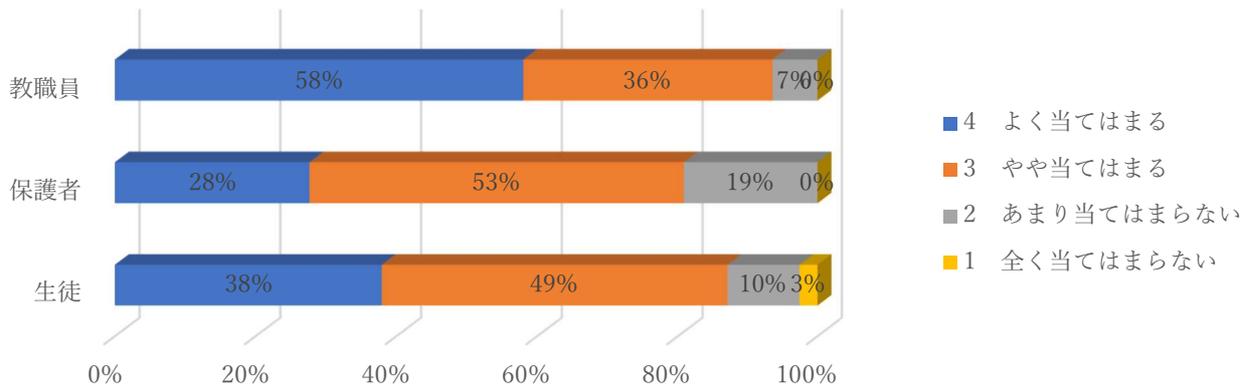
32 本校はメールやホームページを活用して、学校の情報を提供している。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が81%、保護者が79%、教職員が90%と、いずれも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が3.2、保護者が3.0、生徒が3.1でした。

【分析】本校では、生徒や保護者に対し、速やかに情報発信するため、緊急メールシステムを用意しています。特にコロナ禍においてその重要性はますます高まっており、今年度初めには、生徒・保護者に対し、登録のお願いを繰り返してきたところです。また、生徒の活動の様子はできるだけホームページに掲載しております。ただし、3%の生徒 4%の保護者が「全く当てはまらない」と感じているという現実を真摯に受け止め、今後は部活動の様子を新たに加えるなど、情報内容の改善に努めていきます。

33 本校ではインターンシップを推進し、特色ある教育活動が展開されている。

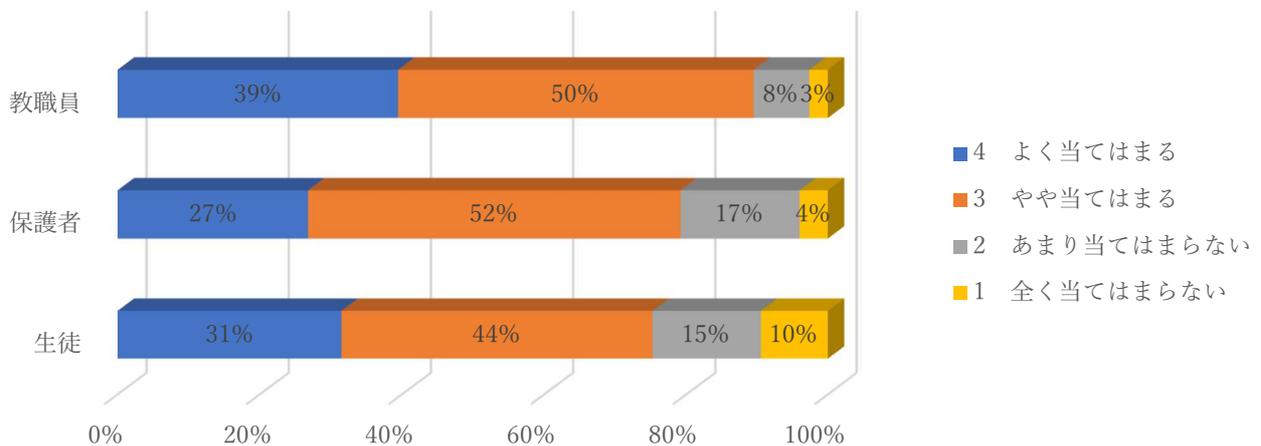


※今回の結果は、オフィス情報科の生徒保護者を対象としました。

【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 87%、保護者が 81%、教職員が 94%と、いずれも高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.5、保護者が 3.1、生徒が 3.2 でした。

【分析】本校では、地元企業の協力の下、オフィス情報科 1 年生の生徒に対してインターンシップを実施しています。これは、企業現場での実際的な体験を通して、学校における学習と職業との関係について理解させ、進路意識の高揚を図るために行っており、本校の特色ある教育活動の一つになっています。今後も、生徒にとってよりよいプログラムとなるよう、改善を図りながら行っていきます。

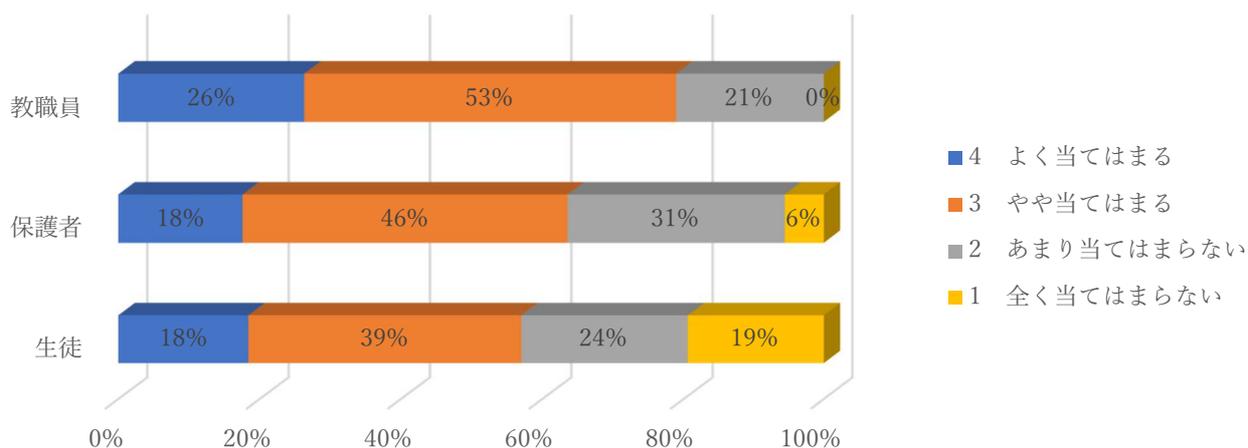
34 本校は松明あかしへ参加・協力している。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 75%、保護者が 79%と、比較的高い割合を占めています。評価の平均は、教職員が 3.3、保護者が 3.0、生徒が 3.0 でした。

【分析】本校はこれまで、松明を制作し、須賀川市の伝統行事である「松明あかし」に参加してきました。しかし、昨年度と本年度の「松明あかし」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、「伝統行事の継承」を目的とした最小限の行事を無観客、関係者のみで実施することが須賀川市から発表されました。来年度こそは、従来どおりの参加ができるよう、後輩たちにつないでいきます。

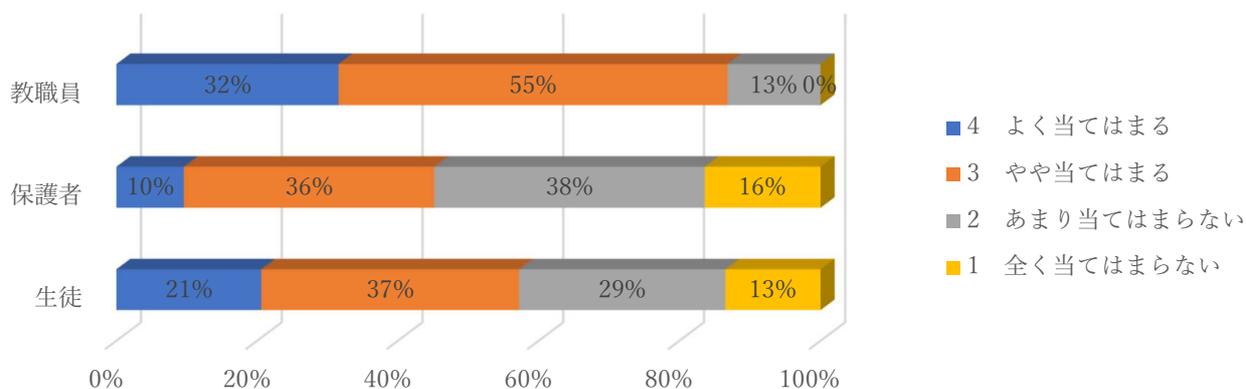
35 本校は円谷メモリアルマラソン大会へ参加・協力している。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 57%、保護者が 64%、教職員が 79%でした。評価の平均は、教職員が 3.1、保護者が 2.8、生徒が 2.6 でした。

【分析】円谷メモリアルマラソン大会について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、令和 3 年は大会規模を縮小し、参加者を限定することが須賀川市から発表されました。そのため、今回はボランティア委員会を中心に協力することとなりました。来年こそは、従来どおりの大会が開催され、本校としても参加・協力ができるようにしていきます。

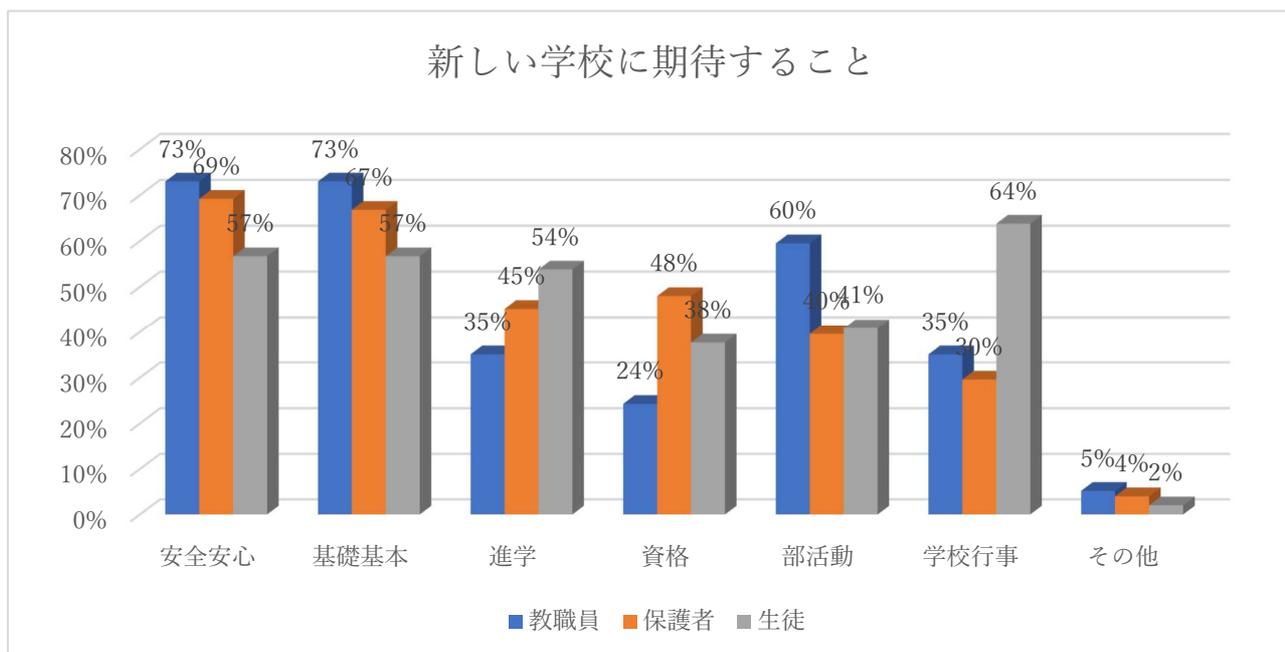
36 私（本校）は、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加（奨励）している。



【結果】「やや当てはまる」を合わせると、生徒が 58%、保護者が 46%、教職員が 87%でした。評価の平均は、教職員が 3.2、保護者が 2.4、生徒が 2.6 でした。

【分析】今年度は、コロナ禍の影響で、「学校の新しい生活様式」を基準に、「子どもたちの安全・安心」を守りながら、教育活動の充実を図ってきました。地域の行事やボランティア活動については、コロナ禍の影響で参加する機会がほとんどありませんでした。来年度は従来通りの募集があれば、積極的に参加していきます。

V 新しい学校に期待すること（3つ選択）



【結果】保護者は、1位が「安全安心に通える学校であること」（69%）、2位が「基礎的・基本的な学力を身に付けることができること」（67%）、3位が「資格につながる学習ができること」（48%）でした。生徒は、1位が「学校行事が盛んであること」（64%）、2位が「安全安心に通える学校であること」（57%）と「基礎的・基本的な学力を身に付けることができること」（57%）でした。

教職員は、1位が「安全安心に通える学校であること」（73%）と「基礎的・基本的な学力を身に付けることができること」（73%）、3位が「部活動が盛んであること」（60%）でした。

【分析】保護者は、学校は子どもを預ける施設として、子どもにとって安心・安全な場所であることを重視していると思われます。生徒は、学校は勉強以外でもいろいろと楽しめる場所として、学校行事が盛んであることを重視していると思われます。今回の意見も参考にして、新しい学校の運営に取り組んでまいります。